

留 学 報 告 書

記入日:2019年7月14日

所属学部／研究科・学科／専攻	経営学部経営学科
留学先国	ドイツ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ 現地言語: Heinrich Heine Universitaet Duesseldorf
留学期間	2018年9月～2019年7月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	??年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	BWL <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年7月4日
明治大学卒業予定年	2019年9月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:4月～9月 2学期:10月～3月 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	学部生725名、修士課程351名
創立年	1965年

留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	円	備考
授業料	600	約7万4千円	2セメスター分、セメスター毎の学籍登録料。
宿舍費	2880	約35万円	一か月320ユーロ
食費	2700	約33万円	一か月300ユーロ程度
図書費	180	約2万2千円	
学用品費	20	約2千4百円	
教養娯楽費	1500	約18万円	
被服費	200	約2万4千円	
医療費	0	0円	
保険費		約8万円	形態:明治大学指定の海外留学保険
渡航旅費		約12万円	往復での値段
雑費		円	
その他	1000	約12万円	旅行費
その他	800	約9万6千円	語学学校の費用
その他		円	
合計		約142万円	



渡航関連

渡航経路: 往路: 成田空港発 ポーランド経由 デュッセルドルフ空港 復路: デュッセルドルフ空港発 モスクワ経由 成田空港

渡航費用

チケットの種類	片道
往路	6万8千円
復路	5万3千円
合計	12万1千円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

特にはないです。携帯アプリの Skyscanner で安いものをずっと探して最も安かったものをそれぞれ購入しました。

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

大学が運営している寮のうちの一つでした。

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3) 住居を探した方法:

大学から寮に入りたいかどうかの連絡が来るので、指示通りに書類を送ったり送金しただけでした。

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

僕はたまたまリフォームしたばかりのきれいな部屋を与えられたのでとてもラッキーでした。家賃はどの学生寮も大体320から350ユーロくらいなので比較的安いと思います。ドイツで自分で家を探すのは特に大都市なら非常に困難かつ時間のかかることなのでどんな寮に入れられても基本的にそこに住み続けることをお勧めします。知り合いの日本人で勝手に寮を出てしまった子がいましたが結局安定した住まいを見つけるのに半年かかっていました。基本的にはどの寮も特別汚いか使いにくいといった話は聞いていないので安心して大丈夫だと思います。



現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

- 利用する機会が無かった
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

基本的にはまず自分で対応してどうしてもだめな場合はドイツ人の友人たちに相談しました。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

犯罪に巻き込まれたことはありませんでした。基本的には西ドイツは治安がいい方だと思いますので、あとはかばんは肌身離さず持ち歩くや貴重品には注意するといった基本的なことができていれば大丈夫だと思います。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

基本的には寮で Wifi は問題なく使えます。他の場所でも Wifi がつながっているところは多かったです。やはり公共のものはつながりにくいです。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

まず現地口座を開設するかどうかという点ですが、基本的に交換留学生の場合は現地で普通口座を開設するほうが便利です。ビザの申請の際には銀行の残高証明書が必要になってくるので基本的にみんなドイツの口座を作っていました。例外として奨学金の証明書をビザ申請の際の経済能力証明として提出する場合は口座を開設する義務はありません。ただあるとやはり便利だとは思いますが。お勤めの銀行は Sprakasse です。Deutsche Bank は優しくないこととなんとなく感じが悪いという学生向けではないことで有名だそうです。それに対して Sparkasse は学生向けの口座のサービスが充実していること、口座を開設する学生が多いことも相まって銀行員の方が学生に馴れていたのでもスムーズに話が進みました。どの地域のドイツ人の学生に聞いても Sparkasse は留学生にはお勧めだそうです。

銀行口座を開設する流れは以前提出いたしました「留学近況報告書」に記載しましたのでそちらを参考にいただければと思います。現地での資金調達で最も便利なのはデビットカードなどをあらかじめ作っておいて国際 ATM などで直接引き落とす方法です。海外送金などはどうしても時間と手間、また、手数料も高つくつのでそれよりは色々節約できるのでお勧めです。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

デュッセルドルフに限れば基本的に日本にあるもので買えないものはないと思います。ただ輸入している関係もあってか基本的に全部日本の値段の3倍くらいの値段です。もしドイツでもお米が買いたいという場合は、ドイツのスーパーで売っている Milch Resi も美味しいです。日本のお米が食べたい場合でも日本食や韓国食のスーパーでヨーロッパで栽培された日本の品種のお米が様々なサイズで買えるのでそれもお勧めです。炊飯器が無くても鍋があればお米は炊けるので僕は割と毎日お米を食べていました。また、中央駅付近にはドイツ屈指の日本人街がありますので基本的にそこに行けばなんでも食べることができます。(ただし高いです)

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)



卒業後の進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

特にこれといったものはないです。ただドイツの教育制度や大学のシステム、仕事に関する考え方や仕事の見つけ方など全般的に自分にとってプラスになるかと判断して進路を決定しました。参考になるかはわからないのですが、DAADのHPにある奨学金やドイツの大学のプログラム検索サイトはよく見ていました。あとは明治大学で毎年5から6月ごろに開催されている欧州留学フェアも決め手の一つでした。

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

周りの日本人学生は基本的に2パターンでした。2月頃に帰国する学生の場合は帰国してすぐの就活になるため、SPIの勉強をしている人もいました。全然準備をしていなくてもいけてしまう人と逆にその逆のパターンの人もいるように、個人の器量の問題というか情報戦をいかにうまく制して面接などの場ではきはき話せるかどうかの問題だと思うので、日本にしようが海外にしようが情報感度を高く持って自分がこういったことをしていきたいという芯があれば2月ごろに帰国してから就活しても割と現地で知り合った知り合いたちはうまくいっている印象がありました。(売り手市場と言われていたのも理由にあるかもしれません。)

また、僕は4月ごろにロンドンで開催されたキャリアフォーラムにも参加をしたのでその報告もしたいと思います。まず参加してみて思ったことは、今の時代どこにいてもWEB面接やこうしたキャリアフォーラムのイベントなどいくらでも就活は進められるんだということです。ロンドンのキャリアフォーラムは(ボストンにいる友人も同じようなことを言っていたのでこの系統のイベントに共通する話かもしれませんが)基本的に全体を通して完全に日本語でイベント運営が行われていました。「英語ができない」、「そういうイベントはなんだかハードルが高い気がする」となんとなく思っ自信がなげな方が当日の参加者も多かった印象でしたが、逆に日本で面接したら恐ろしくハードルも倍率も高い企業などから実際に内定を頂いている方にもたくさんお会いしました。大事なことは臆さずにとりあえずチャレンジすることだと思います。それでダメだったなら何でダメだったのかを考えて次につなげればいだけだと思います。せっかくの留学という経験を生かして参加できるイベントがあるのなら思い切ってチャレンジされることをお勧めします。正直日本で普通に就活するよりもはるかに時間もお金もおかかりませんし、各業界を代表する企業様ばかりですのでそういった点でもとてもいいイベントだと思います。2019年の僕が参加した時に限れば36社中日本人の方以外が企業ブースにいらした企業は1社のみでしたので英語は本当に一言も話せませんでした。

英語の履歴書も持って行ったのですが正直いらなかったかなという印象です。就活の際にヨーロッパ風なものが求められるのか、それとも日本的な就活のスタイルで行く方がよいのかわからなかったのですがどちらも準備したのですが、結局は日本の要素しかありませんでした。逆にヨーロッパ系の学生などはどれだけ優秀そうでも苦戦しているという印象を実際に話をしてみて感じました。長くなりましたが、留学している日本人母語話者は基本的に言って損は全くないので参加されることをお勧めします。ロンドン以外にも上海やボストン、日本でなら夏と冬にそれぞれ東京と大阪で開催されていますのでそちらをチェックされてみていいかもしれません。

また、ドイツやヨーロッパでチャレンジしてみたいという場合は、まず基本的にドイツやヨーロッパでは卒業後に就職活動を個人単位で行うものだとすることに注意が必要です。少しでもいい就職先や自分の適性を生かした職業を得るためにみんな在学中か会社や自分の専攻に合った何かしらの機関などで見習い実習性という形でインターンをしていることが多いです。※ドイツ語でのPraktikum

在学中のインターンが卒業後の就職活動などにも影響を及ぼすことが多いです。日本のように在学中に就職活動をする時期が明確にあるというわけではなく自分の専攻や知識、経験が明確に求められる傾向が強い印象です。基本的に言語能力やその言語での思考能力があることが大前提で、現地での高等教育機関を出るか専門の職業訓練を受けるか(ドイツ語でのAusbildung)でもしなければ日本の大学の新卒でいきなりヨーロッパで働くのは無理だと思います。日本ですでにある程度働いた経験があって転職をする、または駐在員として派遣されるという方はたくさんいらっしゃるのでもしヨーロッパ(に限らず海外で)働きたいならそういった方法が具体的かと思います。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

まだ募集時期ではないので確定はしていませんが NRW 州と Berlin, Baden Wuerttemberg 州の各都市の大学院に応募予定で合格した中で最もしいい条件の大学に進学する予定です。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

ドイツは日本ではあまり認知されていないかもしれませんが教育の水準、政府の学生に対する補助、国全体の雰囲気、学生の生活コストの安さ(学費なし、セメスターチケットで州全体の交通費無料など)、北欧やオランダに次ぐ英語識字能力の高さなどなど、かなり住みやすい条件が揃った国です。数年前に日本でもヨーロッパの移民の問題が報道されていたと思いますがドイツはほんとに様々な人種の方がいらっやいます。しかも移民の方々の中には、まったく身寄りがない、ドイツ語が母国語でないということをはねのけて、現地人顔負けの成績をおさめている天才たちがごろごろいます。日本に住んでいるとなんとなくそういう国々のことは印象がないかもしれませんが、世界は広いというか日本のような平和な国だからこそ会うことの出来ないタイプの人がたくさん会えます。また、ドイツは政府が海外から優秀な学生を集めて将来のドイツでの優秀な労働力になってもらえるように制度面や奨学金などを整えています。法外な学費のする英語圏よりはそうした点ではドイツは優れていると言えるでしょう。ただ進学をするからには自分が何をしたいのか、どういった仕事やどういった生き方がしたいのかということをはっきりさせておくのが前提条件だと思います。進学を実際に考える場合にはまずは語学能力(Test-Daf や Telc など)をクリアしていることと学部時代の成績の基準が満たされているかが重要です。ただ、大学や専攻によっては別途専門知識についての試験を受けなければいけないことがあるので注意が必要です。基本的に州や大学ごとに全く制度が違うのもっと具体的な情報が欲しいという方は DAAD の HP から奨学金や大学のプログラムの検索画面に飛べるのでそちらを参考にされるとよろしいかと思います。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12単位	<input checked="" type="checkbox"/> 2単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:4年時に留学をしたため卒業要件単位があと2単位のみ必要だったので)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Einfuehrung in die japanische Gesellschaft	日本社会への導入
科目設置学部・研究科	現代日本学部
履修期間	2018年冬学期
単位数	12
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Pro. Shingo Shimada
授業内容	日本の経済、社会システム、歴史や文化背景など幅広いテーマを扱う。
試験・課題など	筆記試験のみ。 ※僕は全受講生の前で30分ほどのプレゼンテーションを2度行いました。
感想を自由記入	内容は知っていることが勿論多かったです、見る視点の違いやドイツ人の考え方、比較対象として取り上げられるドイツの社会制度を知るいい機会になりました。
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Maerkte und Preise	市場と価格 ※全て直訳しています
科目設置学部・研究科	BWL ※経営経済学部。以下BWLのみ
履修期間	2018年冬学期
単位数	2
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、演習(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Pro. Christian
授業内容	ミクロ、マクロ経済学の基礎を学ぶ授業です
試験・課題など	筆記試験のみ。
感想を自由記入	まずこの授業は人がとても多いです。また、基礎とは言っても日本の授業と比べると進度と一度の授業で扱う範囲の多さ、難易度も比べ物にならなかったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Produktion und Logistik	生産と理論
科目設置学部・研究科	BWL
履修期間	2019年夏学期
単位数	2
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Pro. Hahn Ruedrigger
授業内容	企業活動における製造に関する諸理論を取り扱う授業でした。
試験・課題など	試験のみでした。
感想を自由記入	教授が個人的に受講した授業の中で一番わかりやすい授業をされていた方でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Einfuehrung in die japanische Geschichte		日本の歴史への導入	
科目設置学部・研究科	現代日本学部		
履修期間	2018年冬学期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に90分が1回		
担当教授	Pro. Christian Tagsold		
授業内容	日本の学校でやる日本史の授業を全てドイツ語でやります。		
試験・課題など	試験のみです。		
感想を自由記入	内容は知っているものでもヨーロッパからの視点なのでかなり面白かったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Statistische Methoden II			
科目設置学部・研究科	BWL		
履修期間	2019年夏学期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義、演習(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に90分が2回		
担当教授	Pro. Florian Heiss		
授業内容	経営学全般の理論や基礎についての授業です。ドイツのどの授業でも感じたことですが、日本の大学と授業の進度も段違いですし、レベルもものによっては日本では学部の授業ではやらないような内容もよくありました。		
試験・課題など	試験のみです。		
感想を自由記入	この大学の経営経済学部の1年生の必修科目の一つで他の出入数がものすごい多いです。400人近くが一つの大きなホールで授業を受けているので正直騒がしかったです。週に2、3回同じ授業が違う時間で行われているので急な用事などで欠席した場合でも違う日に行けて便利でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Statistisches Management			
科目設置学部・研究科	BWL		
履修期間	2019年夏学期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義、演習(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に90分が2回		
担当教授	Pro. Andreas Engelen		
授業内容	マネジメント理論についての概論を扱っていました。		
試験・課題など	試験のみでした。		
感想を自由記入	前述した国際マネジメントの授業と一緒に受けると面白いと思います。担当されている教授の先生も同じ方ですし内容も面白いです。ただ、早口なので頑張るしかありません。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Buegerliches Recht	
科目設置学部・研究科	BWL
履修期間	2019年夏学期
単位数	2
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Pro. Feueuborn Andreas
授業内容	経営法務全般を扱っていました。
試験・課題など	試験のみでした。
感想を自由記入	正直受講していた授業の中で一番難しかったです。法令などの文章は普通の文章とも全然違いますし、教科書に書いてあるような文章ともまた違うタイプの難しさがあったのでここはドイツ人ネイティブとの違いを実感させられたところでした。(ドイツ人学生も理解していない学生がほとんどのようでした)

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Japanischspragisches Oberseminar	
科目設置学部・研究科	現代日本学部
履修期間	2018年冬学期/2019年夏学期
単位数	2
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Pro. Shingo Shimada
授業内容	現代日本学部の修士課程(一部の日本語能力に非常に秀でた学部生なども混じっていました)に向けての日本語によるディスカッションの授業。毎回教授のお知り合いの日本人の研究者の方や日本からいらした教授の先生方をお招きして様々なテーマの講義を日本語で受けるというものでした。
試験・課題など	課題はないです。授業に出席するのが全てです。
感想を自由記入	担当教授の島田先生に大変お世話になっており、参加してくれないかというお話をいただいたので受講していました。普通に日本語母語話者でも難しい内容にも毎回みんな平然とディスカッションに入っていくので驚きました。内容もためになることは多かったですが、どちらかという知り合いを作ったり、一回僕も授業を担当させていただくなど色々な意味でとても有意義な授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Internationales Management	
科目設置学部・研究科	BWL
履修期間	2019年夏学期
単位数	2
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、演習(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Pro. Engelen Andreas
授業内容	国際的なマネジメント理論について、主にヨーロッパや欧米の企業の事例を踏まえて。
試験・課題など	試験のみ。
感想を自由記入	前述の Statistisches Management と同じような感じです。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	ドイツ語の勉強、選考の資料の準備
10月～12月	ドイツ語の勉強
2018年 1月～3月	ドイツ語の勉強
4月～7月	5、6月に大学側から色々な指示がくるのでその通りにこなす
8月～9月	渡航の準備、ドイツ語の勉強、航空券の手配
10月～12月	渡独、入寮、各種手続き(ビザ、住民登録、銀行口座開設等々)、授業開始
2019年 1月～3月	2、3月は春休み期間かつテスト期間及びレポート提出期間
4月～7月	夏学期開始、ドイツの大学と大学院に正規生として入学するための試験を受験(Test Daf)、7月に帰国
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	小さいころから自分の生まれた国ではなく海外でもチャレンジしてみたいと思っていたのがきっかけだと思います。僕は外国籍でずっと二つの国の文化と言葉を持ちながら育ちました。これからの社会を生きていくうえで自分の母国語以外の言葉が話せることの便利さと重要性、そしてその言葉を使って何かをしていくことの楽しさと自分のフィールドが広がっていく感覚が好きだったので、それをもっと広げていく過程で留学という手段を具体的に意識するようになりました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	やはり一番は語学力です。語学力はドイツ語英語ともに出発前の段階で大学の授業についていけるくらいのレベルで向かいましたが、それでもやはり苦労しました。なんといっても文章を読むスピードが違うので毎回必死に食らいついていましたがこれに関しては正直埋めようのないところはあるので個々人の裁量で準備されるのがいいかと思います。それ以外のことだとありきたりですが日本のこと、あとは普段日本人が話さないような政治や社会システムなど割とディープなところについても日本にいる間から関心を持っているといいかもしれません。ドイツ人の友人たちから日本人の子はよく「わからない」と「考えたこともない」という言葉を使うことが多いということを聞きました。良くも悪くもドイツの方が考えたり議論する自分の意見を持っている人が多いのでそういった点から少し物足りなさを感じることもあると言っていました。
この留学先を選んだ理由	ドイツはヨーロッパの中でも経済的・政治的に非常に重要な国です。それに加え英米や日本よりも学生にとってかなり優遇されている面が多かったという点がドイツを選んだ理由の一つです。ドイツの協定留学先でもデュッセルドルフはヨーロッパ有数の日本都市であり、また経済的にはロンドン、パリ、アムステルダムに次ぐ、経済的に重要な拠点だと聞いていたため、将来自分のヨーロッパでのチャンスを広げるのに最も適した留学先だと思いこの街を留学先として選びました。
大学・学生の雰囲気	街の南側に一つだけキャンパスがあります。一つのキャンパスにすべての学部が集まっているので明治大学のキャンパスで例えるなら生田キャンパスのような広さを持っています。町の中央駅から電車で20分もしないところにあるのでアクセスはいいです。学生はドイツ人学生だけでなく留学生や海外からの正規入学生もかなり多く国際的な印象を受けます。デュッセルドルフという街がそもそも外国系の企業や人が多い文化の入り混じった街であるためか、学生の外国に対する興味や多文化に対する寛容性は高いほうだと感じました。
寮の雰囲気	寮は大学が運営しているものがありますが僕はその中でも一人部屋でリフォームされたばかりのかなりきれいな部屋を紹介されました。寮ではたびたびパーティールームのような場所でみんなでゲームをして遊んだり、そうでなくても週末にはだいたい適当に人が集まって外の池のあるところで飲んだり遊んだりしている人がたくさんいました。みんな全く知らない人同士だからこそフレンドリーに話しかけてくれるので勉強につかれたときや外が楽しそうときは僕もよく参加していました。雪が降った日にいきなり窓をたたかれて「部屋にいないで雪合戦しようぜ！」と誘われたのが寮での一番の思い出です((笑))
交友関係	基本的には学部の授業で知り合った学生や、現代日本学部で日本語を専攻している学生たち、また、学生寮で知り合った他学部や全く違う大学(音楽系の専門学校や、各種専門学校など)の学生など様々な学生たちと知り合う機会がありました。前述のとおりドイツ国外からドイツの教育機関に正規入学したり、同じように交換留学やエラスムスのプログラムで来ている学生も多かったためドイツ人に限らず色々な国籍の友人ができました。特に自分が学んでいる他のヨーロッパの言語の母語話者の学生たちとはよく食事をしたりしていました。また、大学が主催している留学生の交流のイベントなどもあり、月に何回も様々なイベントを開催しているのでそうしたのも活用していました。

<p>困ったこと、大変だったこと</p>	<p>まず、言語はどれだけやってもその現地で育った人間にはかなわないです。それに加えてその現地の文化や価値観など当たり前として共有されているものが自分にとって未知のものばかりなので時に理解に苦しむことや、その価値観を持っていないことからくる誤解などには悩まされました。僕がドイツに滞在していた中で最も苦労したのはドイツの役所関係です。デュッセルドルフは比較的に大きい街だったこともあり外国人局が常に混雑していて予約が取れても数か月は待たなくてははいけません。僕は結局何回も外国人局に行きましたが、予約を延々と先延ばしされたり役所の手違いなどでビザがもらえませんでした。(ドイツ滞在中はビザの予約の紙を証明書代わりに持っていました)。そのせいで国内外、帰国する時などに Bundespolizei につかまって取り調べを何回も受けました。外国語で取り調べを受けるのはいい経験ではありませんでしたが、正直怖いですし何も悪いことをしていないのに何回も同じ説明をさせられるのもドイツの役所はこりこりという感じです。</p>
<p>学習内容・勉強について</p>	<p>僕の専攻は経営学を専門にしていました。僕の留学先の授業は日本で受けていた経営学部の授業よりも難易度も高く進むスピードも恐ろしく早かったため、教授に頼んで授業を録音したり、同じ授業を受けているドイツ人の友達に復習を手伝ってもらったりしていました。授業によってはドイツ人の学生ですら悲鳴を上げるようなものもあるくらいなので外国人留学生の自分はその倍でもなんでもやらないとスタートラインにすら立てないと思い、学期間もセメスター休み中も必死に勉強していました。</p>
<p>課題・試験について</p>	<p>僕の学部の授業はあまり課題というものがなかったです。グループで受ける授業などはグループごとに自由時間に集まってプレゼンの準備をしたり議論をしたりすることもありました。試験は範囲が膨大なものが多いですが、最終講義の時期に教授がヒントを出してくれることもありますし、そうでなくても講義と並行して行われている演習の授業にしっかり出て予習復習をちゃんとしていけば何とかなるとは思いました。ただしその授業にちゃんと出て予習復習をして内容についていくというのも外国語なので決して簡単なことではありませんでした。また、基本的には試験を受けるかどうかは自由意志なので今学期はダメかなと思ったら試験を受けないでまたチャレンジということができるシステムだったのでありがたかったです。(試験を受けなければ単位は落としません。ただ試験を受けて不合格になるともちろん成績に反映されてしまいますし、それが四回続くと退学になります)</p>
<p>大学外の活動について</p>	<p>大学外の活動で一番大きなものだったのは毎月第一木曜日に行われていた現代日本学部主催の Stammtisch というイベントでした。日本人都市のデュッセルドルフだけあって毎回日本人ドイツ人合わせて200人程度の人が集まって自由に食事しながら談笑するという大規模なイベントでした。そのほかにも韓国人とドイツ人が集まる同じようなイベントがあったのでそちらにもよく参加して違う都市で勉強している学生や様々な交流をしました。</p>
<p>留学を志す人へ</p>	<p>僕は留学という選択をした段階で素晴らしいことだと思います。そのうえで”ただ”留学をするだけでなくその留学をしたからこそできること、生かせるチャンスを最大限生かせれば留学はもっと素晴らしい経験になると思います。よく「留学をしたら何か変わるのか」という話を聞きますが、正直留学をただだけでは何も変わりません。実際、ドイツでもずっと日本人で固まったり、特に目標もなく漫然と過ごしている人は多かったです。留学という機会を通して外の世界に触れ、そこで自分の実力を磨けば帰国後の日本での世界も広がります。僕は留学を通して日本のルール以外の世界があるということ、日本は意外と小さくもあり大きくもあるということを学びました。この一年という長そうでも短い期間は人生で最も尊い時間になるだけのポテンシャルがあります。留学という選択をされた後輩の皆さんの留学が素晴らしいものになることを祈っております。</p>

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中		ジム	ゆったりと朝の時間を楽しむ	ジム	授業	ジム	ゆったりと朝の時間を楽しむ
	図書館で勉強	一緒にトレーニングする友人たちと過ごす	授業	授業	授業	自宅で勉強	家でゆっくりするか友達と遊ぶか、大体遠出します
午後	学食で昼食	学食で昼食	学食で昼食	学食で昼食	学食で昼食	自宅で昼食または外食	自宅で昼食または外食
	図書館で勉強	授業	授業	授業	授業	週によって遊ぶか勉強するか変わります	自由時間
夕刻	一週間分の食料を買い込む。帰宅して夕飯	帰宅、夕飯後に勉強	帰宅、夕飯後に勉強	帰宅、夕飯後に勉強	友人と飲みに行くかライン川周辺で遊ぶ	同上	夕飯、自由時間
夜	自宅で勉強	12時ごろに就寝	12時ごろに就寝	12時ごろに就寝	同上	同上	早めに睡眠

